

低刺激時唾液量が学童期におけるカリエスフリーからの う蝕発生に関与する

鈴木誠太郎¹⁾ 浮谷 得子²⁾ 今井 光枝¹⁾ 柴田 力²⁾
石塚 洋一¹⁾ 佐藤 涼一¹⁾ 小野瀬祐紀¹⁾ 江口 貴子^{1,2)}
河内 嘉道^{3,4)} 石井 広志³⁾ 杉原 直樹¹⁾

¹⁾ 東京歯科大学衛生学講座

²⁾ 市川市歯科医師会

³⁾ 東京歯科大学短期大学歯科衛生学科

⁴⁾ 河内歯科医院

概要：本研究は、小学生の児童を対象とし、唾液がカリエスフリーからのう蝕発生に関与するかどうかを明らかにするために行った。千葉県内の2つの公立小学校を対象とし、4年生でカリエスフリーであった100名（男児38名、女児62名）を6年生までの2年間追跡した。なお、1つの小学校での観察期間は2013年から2015年、もう一方では2014年から2016年である。唾液がう蝕発生に関与するかを明らかにするため、多重ロジスティック回帰分析を行った。観察期間中、30名（30%）の児童にう蝕が発生した。多重ロジスティック回帰分析の結果、唾液分泌量が少ない状態は有意にう蝕の発生と関与していた（オッズ比：0.38, 95% 信頼区間：0.16-0.90）。したがって、カリエスフリーの児童であっても、唾液分泌量が減少している場合には、う蝕の発生に注意する必要があることが示唆された。

口腔衛生会誌 69：70-76, 2019

索引用語：カリエスフリー、う蝕発生、小学校、コホート研究、永久歯列

著者への連絡先：鈴木誠太郎 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-9-18 東京歯科大学衛生学講座
TEL: 03-6380-9272/FAX: 03-6380-9606/E-mail: suzukiseitarou@tdc.ac.jp